

## 広島県産カラフトゴマフトビケラの確認

野崎 隆夫<sup>1)</sup>

*Semblis phalaenoides* (Linnaeus) collected from Yahata-bara Mire,  
Hiroshima, western Japan

Takao NOZAKI<sup>1)</sup>

**Abstract** Four female specimens determined as *Semblis phalaenoides* (Linnaeus) collected from Yahata-bara Mire, Hiroshima, western Japan, were re-examined and the identification was confirmed. Photographs and illustrations of females of two Japanese *Semblis* are provided.

**Key words** : Trichoptera, *Semblis phalaenoides*, Hiroshima Pref.

ゴマフトビケラ属の成虫は大型で特徴的な斑紋の翅を持ちかつ昼行性であることからよく目立つが、分布が局地的であることなどから報告例は多くない。Wiggins (1998) はゴマフトビケラ属を含む世界のトビケラ科のモノグラフの中で本属の種を3種に整理し、日本にはヨーロッパから極東アジアに広く分布するカラフトゴマフトビケラ *Semblis phalaenoides* (Linnaeus) と北海道、本州、千島およびサハリンに分布するゴマフトビケラ *Semblis melaleuca* (McLachlan) の2種が分布するとした。そして、本州から知られるカラフトゴマフトビケラの唯一の産地である広島県の記録は確認する必要があることを指摘した (Wiggins, 1998)。

広島県産のカラフトゴマフトビケラの記録は、桑田 (1965) が、北隆館発行「原色昆虫大図鑑」第3巻の中で広島県山県郡三段峡産の個体をその展翅標本の写真とともに紹介したのが初めてと思われる。そして、Kuwayama (1967) は、ゴマフトビケラ属の新種として韓国から *Semblis coreana* (Kuwayama) [Mey (1989) および Wiggins (1998) によってカラフトゴマフトビケラのシノニムとされた] を記載するとともに、桑田 (1965) の写真から判断して広島県産の個体も同一種らしいことを指摘した。その後、竹井 (1988) および谷・中村 (1997) によっても、芸北町八幡原から本種は記録されているが、交尾器などの詳細な検討はなされていないようである。

私は、比婆科学教育振興会中村慎吾氏のご厚意により比和町立自然科学博物館に所蔵されている本種の雌標本を検討する機会を得たので、その結果を報告する。

---

1) 神奈川県環境科学センター, 254-0072 平塚市中原下宿842 (Kanagawa Environmental Research Center, 842 Nakahara-shimajuku, Hiratsuka-shi, Kanagawa 254-0072)

検討標本

3♀ : Yahata, Geihoku, 28. V. 1987, S. Nakamura leg. ; 1♀ : Yahata, Geihoku, 7. VI. 1993, S. Nakamura leg.

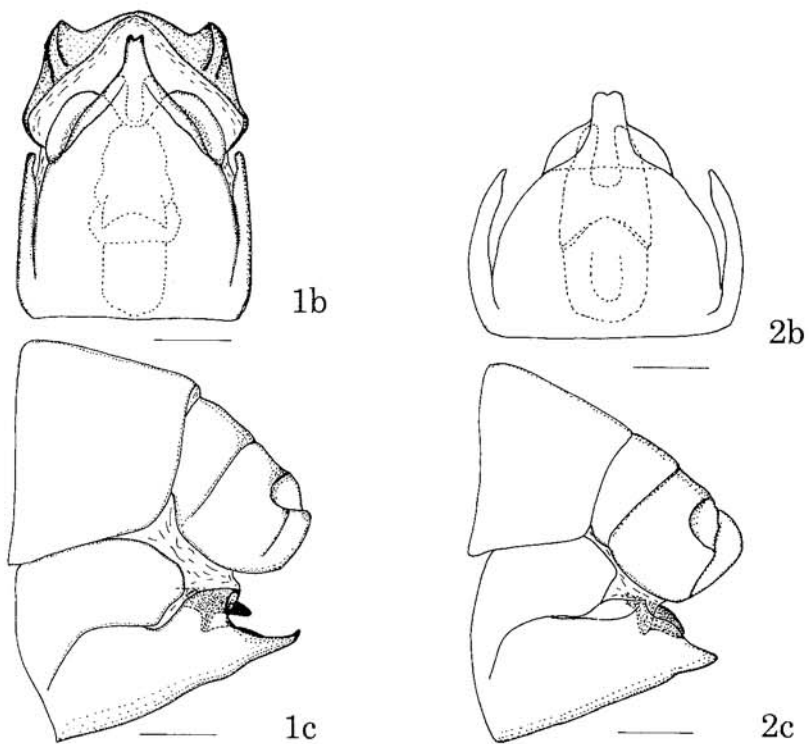
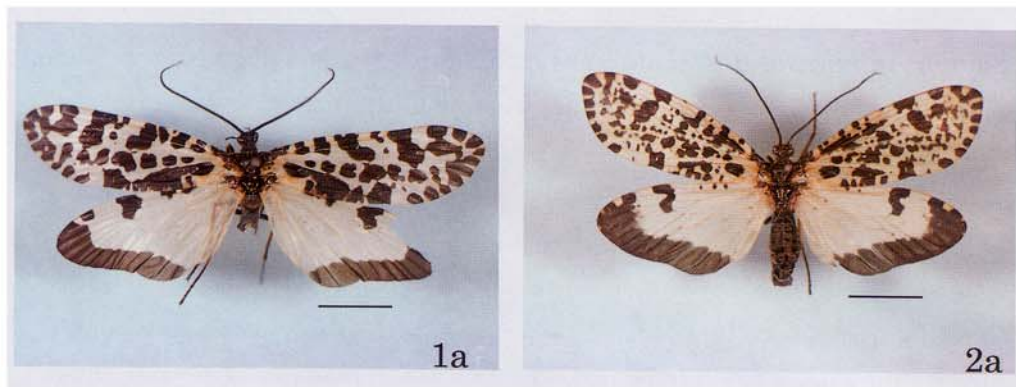


図1、2 ゴマフトビケラ属2種

1, カラフトゴマフトビケラ *S. phalaenoides* (広島県産 Hiroshima)

2, ゴマフトビケラ *S. melaleuca* (新潟県産 Niigata)

a, 雌 female      b. 雌交尾器腹面 female genitalia, ventral

c, 雌交尾器側面 female genitalia lateral      スケールは a : 1 cm ; b, c : 1 mm.

## 結果と考察

図1および2に標本写真および雌交尾器の図を比較のために新潟県産のゴマフトビケラのものとともに示した。ゴマフトビケラ属の翅の斑紋には変異が知られるが (Wiggins, 1998), 今回検討したすべての標本の前翅にはカラフトゴマフトビケラの特徴とされる明瞭かつ大きな黒色紋があり, 新潟県産のゴマフトビケラと容易に区別できた (図1 a, 2 a)。交尾器も明らかにカラフトゴマフトビケラの特徴を持ち (図1 b, c) この結果従来報告されてきた通りカラフトゴマフトビケラが広島県に産することがあらためて確認できた。

Wiggins (1998) は日本の大学や研究機関の標本庫に所蔵されている多くの標本を検討し, カラフトゴマフトビケラが北海道産のみしか見つからなかったことから, 本州における本種の記録を疑問とした。そして, 大陸に広く分布するカラフトゴマフトビケラが日本では北海道のみに分布することを前提に, 姉妹種であるゴマフトビケラが本州に分布することから, 後者は大陸が北海道とつながり本州とは分離していた時代に生じその後北海道や千島及びサハリンに分布を広げた可能性を指摘した (Wiggins, 1998)。本州におけるカラフトゴマフトビケラの分布はこの考えを支持しない可能性もあるが, ゴマフトビケラの分布が中部地方以北でのみ確認されており, 広島県との間はゴマフトビケラ属2種ともに分布の空白区間となっている。始めに述べたようにゴマフトビケラ属の採集記録は局地的かつ少ないので, 分布に関しての安易な議論はできないが, 本州では西日本でのみ確認されたカラフトゴマフトビケラの分布は韓国にも分布する本種との関連性をうかがわせ興味深い。

## 付 記

今回桑田 (1965) が記録に用いた標本は検討しなかったが, 少なくとも翅の斑紋は今回検討した標本と一致する。谷・中村 (1997) は広島県におけるカラフトゴマフトビケラの唯一の産地は八幡原であることを述べており, 桑田 (1965) の標本も三段峡の上流部にあるこの湿原で採集された可能性が強いという (中村私信)。なお, 近木英哉氏 (鳥根県松江市) が鳥根県赤来町赤名湿原で採集された氏所蔵の標本の写真をお送り下さったが, 翅の斑紋から判断する限り本種の可能性が強い。

## 謝 辞

貴重な標本を検討する機会を与えて下さった中村慎吾氏 (比婆科学教育振興会) および鳥根県赤名湿原産の標本写真をお送り下さった近木英哉氏 (鳥根県松江市) に深謝いたします。

## 引 用 文 献

- 桑田一男 (1965) 毛翅目. 原色昆虫大図鑑 第3巻, 53, 54, 163-166+pls.82, 83. 北隆館, 東京.
- Kuwayama, S. (1967) The genus *Holostomis* in Japan and adjacent territories (Trichoptera : Phryganeidae). *Insecta Matsumurana*, suppl. 2: 1-6+pls.1-2.
- Mey, W. (1989) Taxonomische und faunistische Notizen zu einigen Köcherfliegen

- (Trichoptera) aus Korea. Acta Entomologica Bohemoslovaca, 86 : 295-305.
- 竹井洋右 (1988) 広島県芸北町八幡湿原からカラフトゴマフトビケラを採集. 比婆科学 (136) : 46.
- 谷幸三・中村慎吾 (1997) 広島県のカゲロウ目, カワゲラ目, ヘビトンボ目とトビケラ目. 比和科学博物館  
研究報告, (35) : 53-66.
- Wiggins, G. B. (1989) The caddisfly family Phryganeidae (Trichoptera). Univ. Toronto  
Press, Toronto, Buffalo and London.